



平成19年11月12日

各 位

香川県高松市扇町2丁目7番20号

セーラー広告株式会社

代表取締役社長 古田 泰仁

(コード番号: 2156)

問い合わせ先 取締役総務本部長 山内 務

TEL 087-825-1156

平成20年3月期中間業績予想との差異に関するお知らせ

平成20年3月期中間業績(平成19年4月1日～平成19年9月30日)について、平成19年6月21日付「平成19年3月期 決算短信」において発表いたしました中間業績予想と差異が発生いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成20年3月期の連結中間業績予想との差異(平成19年4月1日～平成19年9月30日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	5,375	154	122	65
今回実績(B)	5,123	92	85	31
増減額(B-A)	△252	△61	△36	△33
増減率	△4.7%	△40.2%	△29.6%	△51.9%

2. 平成20年3月期の個別中間業績予想との差異(平成19年4月1日～平成19年9月30日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	5,051	128	96	49
今回実績(B)	4,831	89	83	35
増減額(B-A)	△219	△39	△12	△14
増減率	△4.4%	△30.9%	△12.9%	△28.6%

3. 差異の理由

当中間連結会計期間における広告業におきましては、徳島支社、愛媛本社、宇和島支社、広島支社において売上高が減少いたしました。いずれも、流通・小売業、不動産・建築業、通信業における広告主のセール

スプロモーション扱い高が堅調に推移したものの、行政・官公庁、自動車、教育・医療業、娯楽・レジャー業における既存広告主からの扱い高が減少した結果であります。また、出版業におきましては、大手出版会社の取材範囲拡大による大都市圏や地方単位を題材とする情報誌やインターネット等の新たな情報発信源の多様化の影響から、月刊誌販売部数が伸び悩みました。

以上の結果、広告業の売上高は4,831百万円（当初予想比219百万円の減少）、出版業の売上高は311百万円となり、連結売上高は5,123百万円（当初予想比252百万円の減少）となる見込みです。

広告業におきましては、印刷物を中心とした競合他社との価格競争激化の影響等による売上高の減少、粗利益の低下がありました。特に、高松本社における不動産・建築事業者からの低粗利益受注案件が大きく影響いたしました。さらに、企画力強化を目的とした制作社員の増員による制作費の増加があり、営業利益は89百万円（当初予想比39百万円の減少）となる見込みです。また、営業外収益として住宅展示場に関連する手数料等の収益がありましたが、営業利益の減少をカバーするに至らず、経常利益は83百万円（当初予想比12百万円の減少）、中間純利益は35百万円（当初予想比14百万円の減少）となる見込みです。

また、出版業におきましては、月刊誌の販売部数の減少と営業力強化を目的とした契約社員の増員による人件費の増加が影響し、営業利益は1百万円となる見込みです。

以上の結果、連結決算における営業利益は92百万円（当初予想比61百万円の減少）、経常利益は85百万円（当初予想比36百万円の減少）、中間純利益は31百万円（当初予想比33百万円の減少）となる見込みです。

なお、個別業績につきましては、上記広告業の業績に記載のとおりです。

また、当社におきましては、これまで以上に質の高い広告制作物の提供に努め、新規顧客の獲得や既存広告主の多様な要望にあった提案力の強化、クロスメディア型提案の強化等に取り組み、全社をあげて収益の向上を目指しており、当社グループ全体の通期見通しといたしましては、当初予想通り（平成19年6月21日付「平成19年3月期 決算短信」）の数値を見込んでおります。

以上